

理学研究科 応用物理学専攻

人材育成に関する目的
応用物理学専攻は、基礎物理及び先端物理に関する高度な教育研究並びに、工学との橋渡しともなる物理学の応用に関する幅広い教育研究を行い、社会を変革するイノベーションを創出するとともに、社会的倫理観、国際的視野、そして新しい学問及び産業の芽を興すことに挑戦する高い志を持った研究者・教育者・技術者を育成する。

教育課程編成・実施の方針[カリキュラム・ポリシー]
修士課程においては、学士課程で養った教養、基礎学力、専門知識を基礎として、さらに「専門科目」「一般教養科目」「研究指導」により、本専攻の定める目的を実現するための教育課程を編成する。
(1)「専門科目」では、より高度な専門的知識を身に付けるため、特論、実験、演習等の授業科目を重点的・効果的に配置する。
(2)「一般教養科目」では、幅広くかつ深い学識を涵養する授業科目、コミュニケーション能力・倫理観・国際性等を養う授業科目を配置する。学際的な広い視野および深い学識を培うために、様々な専門の他機関の専門家によるオムニバスの科目を配置する。
(3)研究指導の過程では、国内外の文献の調査、指導教員等研究者との議論、国内外の学会等での発表、学術論文の発表等を行うことを通して、自身の研究成果を正確かつ効果的に表現する力、専門性を要する研究開発力、及び課題解決力を高め、研究者又は高度職業人として国内外で国際的な視野を持って活躍できる能力を育成する教育を行う。また、指導教員の指導の下、2年間の研究成果を修士論文としてまとめる過程で、研究内容を分析・表現する能力を養う教育を行う。



必修科目

選択必修科目

選択科目